

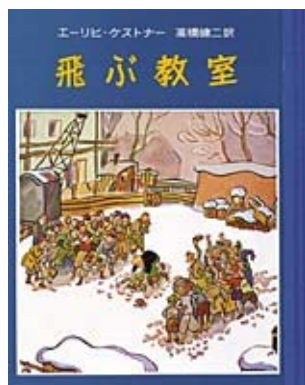
12月の季語 降誕祭(こうたんさい)

イエス・キリストの降誕の日 クリスマス。
明かりが点った窓辺にクリスマス飾りが見えると、家の中から幸せがこぼれるようで美しい。

雪道や降誕祭の窓明り 杉田久女



クリスマスが近づくと読みたくなる「飛ぶ教室」は、子どもの頃に読んで、激しく感動したなかの1冊だが、いま読んで、やっぱり感動がやってくる。それから感じるのは、子どもの感受性がおとなと大きく違うということ。子どももおとなも同じ世界に生きているのだから、いたわりあって、尊重しあっていかなければ!とクリスマスを迎える心が湧いてくる。



飛ぶ教室
エーリッヒ・ケストナー著
高橋健二 訳
岩波書店

飛ぶ教室の舞台はドイツの男子寄宿学校。クリスマス休暇になっても家に帰ることのできないマルチン・ターラーは、正義先生からクリスマス・プレゼントの“切符代”をもらい、家に帰ります。家では、切符代を送ることができなかった両親が切ないクリスマスを迎えようとしていましたが、思いがけなく、宝物の息子が帰ってきます。

両親と息子は、正義先生へのお礼状をポストに入れるため、雪の夜道を停車場に行きました。3人の頭上には冬の星空が広がっています。

マルチンは立ちどまって空を指さしました。
「ぼくたちがいま見る星の光は数千年もまえのものです。光線がぼくたちの目にとどくまでには、そんなに長い時間がかかります。たぶんこれらの星の大多数は、キリストのお生まれになるまえに、消えてしまっているでしょう。しかし、その光はまだ旅を続けています。」(220頁)



Wishing You A Merry Christmas.

常緑

緑と赤と白はクリスマスカラー。モミ、えぞ松、トウヒ、月桂樹の緑と、りんごや西洋ヒイラギ、ポインセチアの赤、ヤドリギの実の白などの植物に、星やリボンやろうそくを飾れば、部屋の中はすっかりクリスマスらしくなります。



西洋ヒイラギはモチノキ科の常緑樹、春に小さな白い花を咲かせ、晩秋から冬にかけて実をつける。実ははじめは緑色だが、クリスマスの頃に、鮮やかな赤に熟す。葉の緑は「永遠の生命」、赤い実は「キリストの血」、葉のとげは「イエスの冠」を象徴することから、クリスマスリースやプレゼント、お菓子の飾りなどに使われる。

ある年、鉢植えの西洋ヒイラギを玄関前に置いたところ、2日目にはヒヨドリがやってきて、すっかり食べてしまいました。冬鳥は少ない食べ物を探して目を凝らしているらしく、西洋ヒイラギでも南天でも、赤くなったら、飛んできます。

来年の手帳

2~3年前から盛り上がっている手帳ブーム。80年代後半にシステム手帳ブームを起こした「ファイロファックス」は、パイプサイズ、リフィル、6穴リングなどを日本の手帳に持ち込んだ英国ブランドですが、今回のブームは和製。手帳に“メモることでビジネスに勝つ”と説いている。なかでも話題の手帳は、GMO 熊谷氏のクマガイ手帳と、コピーライター系井氏のほぼ日手帳。私も2007年はやや大判手帳を使って、大いに図や絵を書きこみたいと思います。